

ゲストティーチャーをお招きして (NO.1)

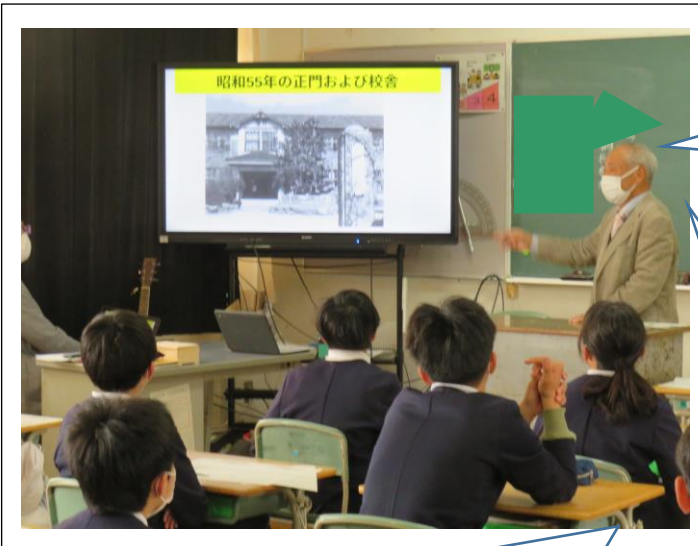
3月17日(金)に、地域の方(元加古川市教育長山本勝様と平庄町町内会連合会会長谷川一成様)をお招きして、6年生が総合的な学習を行いました。

今年度初めから、6年生は学校のリーダーとして、創立130周年に向けて、そして、平庄小学校の閉校に向けて、そして、両庄みらい学園に向けて、いろいろと活動をしてきました。その中で、「地域の方から平庄小学校の昔の話を聴きたいな」「平庄行進曲ってどんな曲なのだろう?聴きたい(歌いたい)な」「二宮金次郎の読んでいる本には、どんなことが書かれているのだろうか?」等、いろいろな思いや願いを発信していました。そこで、卒業までわずかとなってしまいましたが、子どもたち(6年生)の願いが叶えられるよう、地域の方をお願いをして、学習の場を設定しました。授業のタイトルは、『6年生の皆さんに贈ることば』です。



6年生の皆さんに贈ることば

- 1 はじめに
- 2 平庄小学校時代の思い出
 <<平庄メモリーズ>>
 ○校舎、授業、給食、遠足、運動会、学芸会、他校との交換学習 など
 ・平庄行進曲
 ○二宮金次郎(尊徳)について
 ・二宮金次郎(銅像)が読んでいる本について
- 3 6年生の皆さんに贈ることば
- 4 むすびに



初めての給食は、パンとスパゲティみたいなものと脱脂粉乳でした。

加古川小学校と交換学習をしました。加古川小学校は6クラス、平庄小学校は2クラスでした。十何人の人が交換学習に加古川小学校へ行きました。バスで半時間ほどかけて行きました。最後の日は、一日だけホームステイをしました。おいしいものをよばれました。

今の運動場ののぼり棒あたりでブドウを作っていました。マスカットベリーAやデラウエアです。みんなで食べました。

小学校4年生の時には、神戸新聞社を見学に行きました。

修学旅行は、伊勢と奈良に行きました。

運動会では、平庄行進曲で行進しました。その曲は9番まであります。それぞれの地域の名前が入っている曲です。

小学校2年生の時の遠足では、池尻橋の下あたりから渡し舟で向こう岸に渡り、日岡山に行きました。弁当を食べて帰ってきました。渡し舟は10人ほどで乗りました。

小学校6年生の学芸会では、殿様役の友だちのことを覚えています。家でちゃんまげを作ってきました。茶瓶をひっくり返して、そこに藁を使って作っていたそうです。

ここで、『平庄行進曲』を教えてくださいました。

《平荘行進曲 より》



子どもたちは、『平荘行進曲』の歌詞について教えていただいた後、一緒に歌ってみました。

『平荘行進曲』では、それぞれの地域の名前が入っています。そして、この曲の中に、『仁』という言葉があります。『仁』とは、素晴らしい人のことです。

《地名について》
里、芝（養老東）、小畑、原（上原）、上部、中山、奥新田、寺谷（磐東）、西山、一本松、養老（養老西）、弁天池畔（池尻）、山角、神木、磐

二宮金次郎の銅像について（二宮金次郎が読んでいる本は？）



一人國を定むと謂う。
此を一言事を債り、
其の機此の如し。
一人貪戻なれば、一國亂を作す。
一家譲なれば、一國讓に興り、
一家仁なれば、一國仁に興り、

二宮金次郎は、江戸時代の人です。後に、尊徳（そんとく）と言われます。金次郎は、14歳の時に父を亡くし、16歳で母を亡くしています。おじの家でお世話になり、一家の再興を目指します。自分の境遇にめげることなく、しっかり勉強して身を立てた人です。

二宮金次郎の読んでいる本は、中国の古典（古い本）で、『大学』という本です。その本の一部が、二宮金次郎の銅像の本に刻まれています。（左記の内容です。）

【意味】

ひとりが善い行いをすればみんなに広がる。
ひとりが相手のことを大切に思えば、みんなに広がる。
そして、ひとりが自分のことだけを考えると、争いがおこる。

2月の末に、6年生が主体的に奉仕作業を行いました。その際に、子どもたちが、二宮金次郎の銅像をみがくことにしました。そのことがきっかけで、この度の学習ができています。

「二宮金次郎は、何の本を読んでいるのだろうか？」
平荘小学校にある二宮金次郎の銅像の本は何も刻まれていませんでした。実は、お二人のゲストティーチャーの山本先生と谷川先生にお伺いすると、以前、平荘小の二宮金次郎の銅像は腕から先を修理したとのことでした。いろいろなことを知る機会となりました。